

第3回 10月18日(火)

「パンジャービー語」

講師：萩田 博 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授

パンジャービー語を表記するために、系統の異なるグルムキー文字（インド系文字）とシャームキー文字（アラビア系文字）という2種類の文字が使われています。

パキスタンでパンジャービー語を母語とする人々は8千万人以上いますが、パンジャービー語は6年生からの選択科目として教えられています。

ウルドゥー小説の黄金期ともいえる、1940年代から1970年代にかけて活躍したウルドゥー語作家であるサアーダット・ハサン・マントー（1912-1955）、クリシャン・チャンダル（1914-1977）、ラージェンダル・スィング・ベーディー（1915-1984）、アフマド・ナディーム・カースミー（1916-2006）は皆、パンジャービー語を母語とする人々でした。

こうしたことが起こった、あるいは起きている背景にはどのような事情があるかについて、お話をしたいと思います。